文部科学省高等教育局 国立大学法人支援課の視察がありました

総務課長　山崎（やまさき）　健治（けんじ）

7月31日（月）、文部科学省高等教育局国立大学法人支援課 大江耕太郎企画官ならびに同課 小川優課長補佐が当院を訪問されました。

初めに、椎名病院長が当院の現状について説明した後（写真１）、放射線治療棟、高度外傷センター、脳卒中ケアユニット（SCU）を視察していただきました。

今年５月に新営した放射線治療棟では新たに導入した動体追尾照射機能を搭載した治療装置について（写真２）、高度外傷センターでは最新の外傷診療ユニット：ハイブリットＥＲやドクターカーについて（写真３）、SCUでは脳卒中の専門看護とリハビリテーションについて（写真４）、それぞれ担当者から施設や機械、設備等の説明を行いました。

短い時間ではありましたが、実際の医療現場を文部科学省の方々に視察していただき、熱心な質問や意見を頂戴することができ大変貴重な時間となりました。

写真１

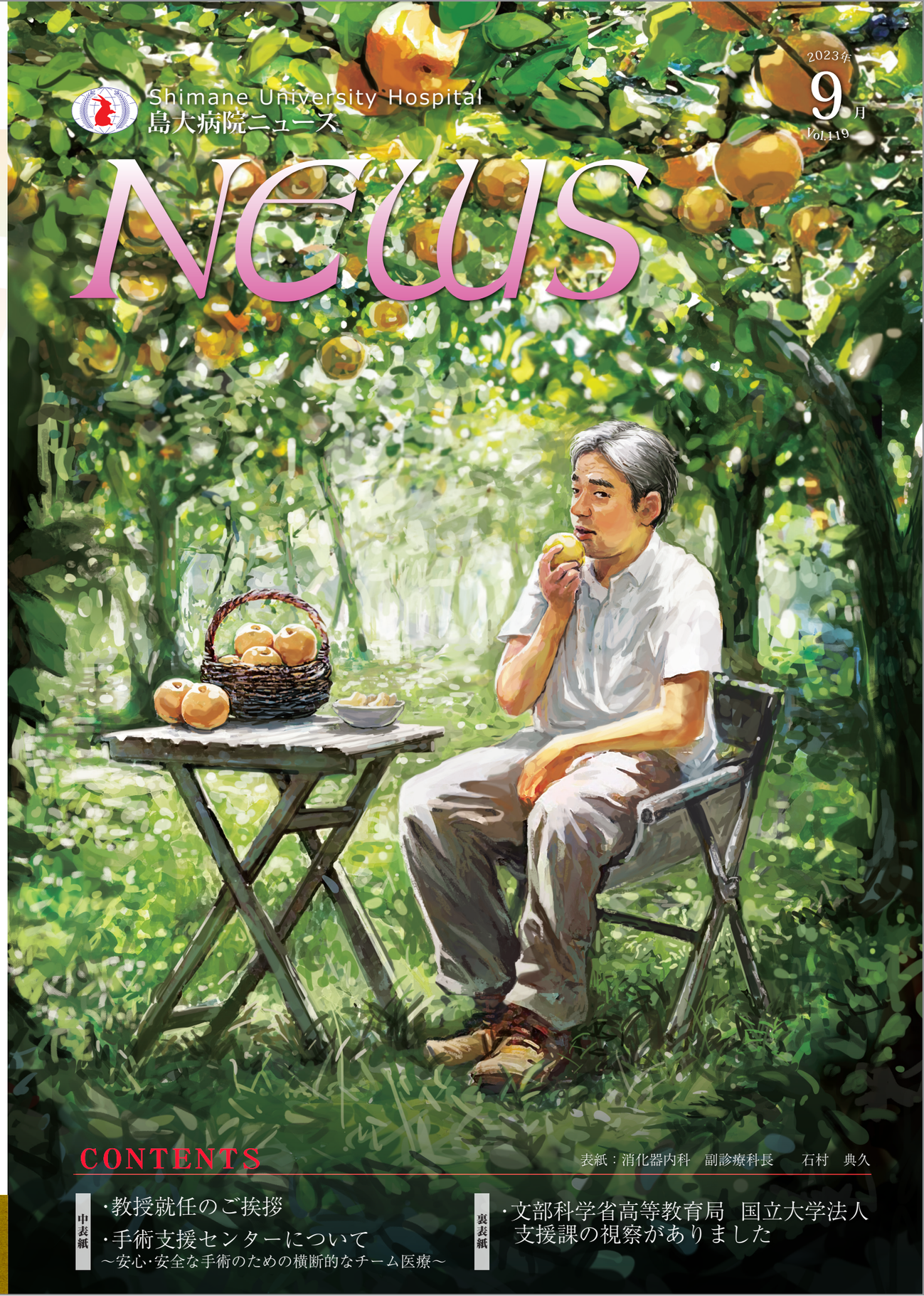
写真２

写真３

写真４

お問い合わせ　総務課　TEL：0853-20-2012

Vol.119 2023 09 島大病院ニュース
2023年9月発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/



Shimane University Hospital
島大病院ニュース
2023年 9月
Vol.119

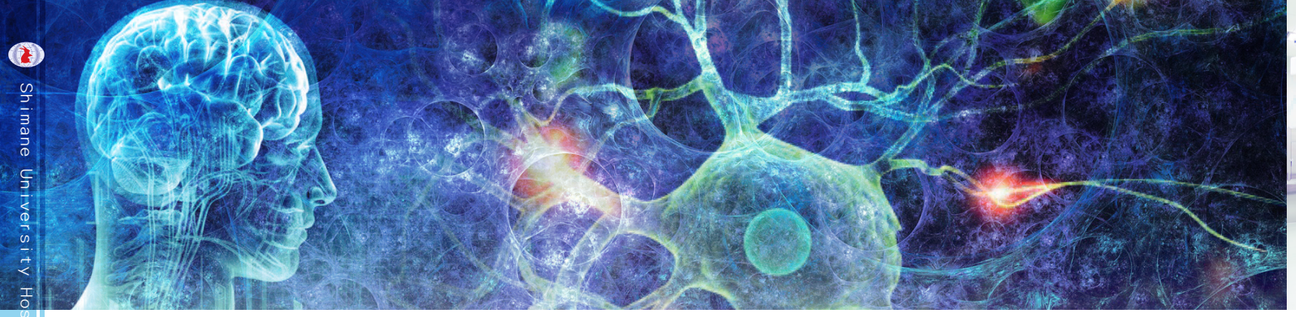
NEWS

表紙：消化器内科　副診療科長　石村　典久

CONTENTS

中表紙
・教授就任のご挨拶
・手術支援センターについて
～安心･安全な手術のための横断的なチーム医療～

裏表紙
・文部科学省高等教育局　国立大学法人支援課の視察がありました



教授就任のご挨拶

脳神経外科学　教授　林（はやし）　健太郎（けんたろう）

2020年9月に当院に赴任し、脳神経内科と脳神経外科の先生方と共に高度脳卒中センターを立ち上げ、3年になろうとしています。救急診療体制も整い、脳卒中ホットラインも広く認知され、昨年は県内の医療機関や救急隊から257件のご連絡をいただきました。県内で２施設の一次脳卒中センターコア施設にも認定され、tPA静注療法や血栓回収療法も大幅に増加してきています。2021年10月には山陰ではじめて脳卒中ケアユニット3床を開設し、2022年4月からは病棟の改修を経て6床で運営し、高い稼働率を維持しています。日夜、専門看護とリハビリテーションがコラボレーションし、患者さんの回復を促しています。

脳卒中診療も軌道に乗り、脳神経外科の先生方と共に脳血管障害の血管内治療や開頭術に取り組んで参りましたが、8月1日付けをもちまして脳神経外科学教授に就任いたしました。脳神経外科では脳腫瘍、頭部外傷など診療の幅が広がりますが、関係各所と連携し、最善を尽くしたいと思います。また、県内の関連施設の脳神経外科診療を充実させると共に、学生教育を含めて、次の世代を担う人材を育成してゆきたいと考えています。県内の医療機関の皆様には脳神経外科診療におきましても患者さんのご紹介やリハビリテーションなどでお世話になることと存じます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先　脳神経外科学　医局　TEL：0853-20-2245

Shimane University Hospital

手術支援センターについて

～安全・安心な手術のための横断的なチーム医療～

手術支援センター　副センター長　末廣（すえひろ）　章一（しょういち）

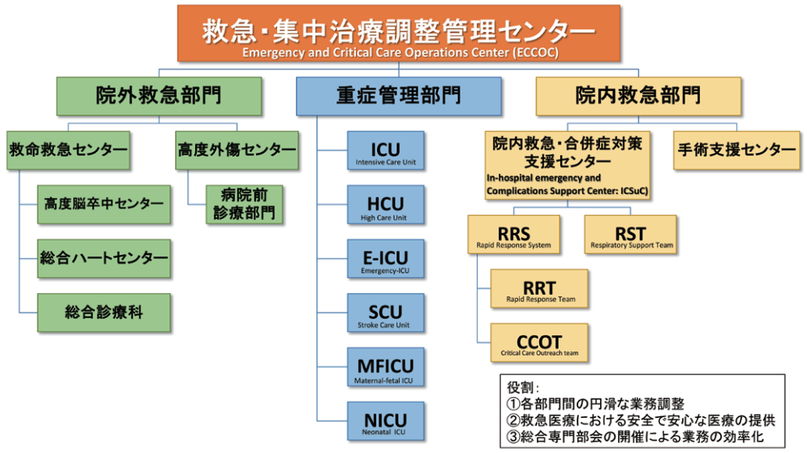
2023年度より手術支援センターを開設し、手術を受けられる患者さんへ「安全・安心な手術の提供」ができるように横断的なチーム医療を展開し、手術合併症の低減への取り組みを開始しました。

一例をご紹介します。骨盤内の高度癒着が疑われ、大量出血の可能性が極めて高い帝王切開予定の症例に対して、当該科・麻酔科・心臓血管外科・外科・泌尿器科・高度外傷センター・放射線科の医師、看護部・MEセンター・輸血部・医療安全管理部の職員が集まり検討を行いました。これだけのスタッフが集まったのは、体外循環でのサポートを必要とするかもしれない出血も予想されたためです。予定手術で準備していましたが、緊急の帝王切開となりました。検討していた手順通りに脊椎麻酔・尿管ステント留置・内腸骨動脈閉塞用バルーン留置・大腿静脈からの中心静脈確保を実施し、手術を行いました。周術期・術後、母子ともに問題ありませんでした。症例の振り返りも実施し改善点を検討しております。

今回の経験により、これまで症例ごとに若干の差があった出血が予想される帝王切開の準備をより具体的に統一することができました。

手術支援センターでは、産婦人科症例に限らず、出血が予想される症例の術前検討・手術中のバックアップ・サポート、また出血時の止血のお手伝いを実施しています。

今後も関係各部署と連携し、当院での「安全・安心な手術の提供」に努めてまいります。



ご報告

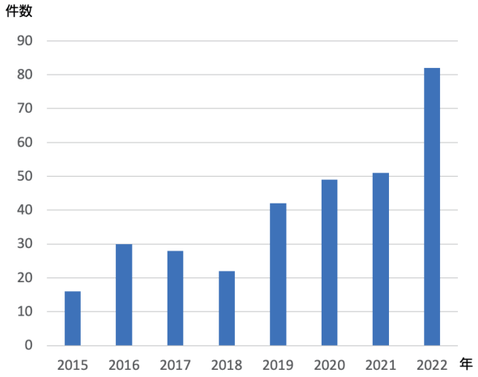
無痛分娩（和痛分娩）について
～出産の痛みを和らげ、安全な出産を提供いたします～

産科・婦人科　診療科長　京（きょう）　哲（さとる）

陣痛は赤ちゃんが外に出ようとするときに子宮の出口や膣が引き延ばされて生じる痛みです。お産の痛みとどのように向き合うのかは人それぞれですが、痛みを伴わないお産を望む妊婦さんや、様々な妊娠合併症のために痛みを避けなければならない妊婦さんもいます。当院では、このような分娩時の選択肢を広げるために無痛分娩（和痛分娩）を取り入れています。

2020 年の報告では日本の分娩取扱施設の無痛分娩実施率は約 25%で、全分娩の 9 %の患者さんに行われています。2016 年には 6 %でしたので年々増加傾向にあります。ちなみに欧米では 6 ～ 8 割の妊婦さんに無痛分娩が実施されている国もあります。

図 1　当院の年度別無痛分娩実施件数



当院は心疾患合併妊娠や脳神経血管障害合併妊娠など、分娩時のいきみや血圧上昇を避けた方がよい妊婦さんに対して無痛分娩を行ってきましたが、2015 年からは希望者にも行うようになり、その後増加傾向にあります（図 1 ）。当院で行う無痛分娩は「硬膜外鎮痛法」といわれる下半身の痛みを取る方法です。一定の研修を受けた産婦人科医か麻酔科医が担当しています。

2017 年に厚生労働省がまとめた母体死亡調査の中で、母体死亡 298 例のうち 13 例が無痛分娩を行っていたとの報告があり、無痛分娩は十分な安全管理体制のもとで実施されることが重要です。2018 年に無痛分娩関連学会・団体連絡協議会が発足し、この団体で厳しい審査が行われ、認定施設が公開されています。島根県内では当院を含めた 2 か所の施設が認定されています。当院は産科、小児科、麻酔科、高度外傷センターの医師が常時院内におり、安全に無痛分娩が行える体制を整えています。無痛分娩のリスクや経済的な個人負担などの情報は当科の HP にまとめておりますので、興味のある方はぜひ一度ご覧ください。▶▶▶▶▶▶▶

問合せ先　産科・婦人科 外来　TEL：0853-20-2389

ご報告 島大病院ニュース
2023年9月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

お知らせ

親子のサポート体制を準備しています

子どものこころ診療部 部長　竹谷（たけたに）　健（たけし）
公認心理士　伊藤（いとう）　晃崇（てるたか）

8 月 20 日に開催しました、令和 5 年度子どものこころ診療部研修会『病院と学校の先生に知ってほしい発達障害と保護者の思い・保護者の願い』には、多くの方にご参加いただき誠にありがとうございました。

開催後に頂いたご感想では、皆様が子どもを支援する専門家でありつつも、保護者様に対しても心を砕き、親も子も支援することに腐心されている様子を伺い知ることができました。当部門も子どものこころの専門機関であるからこそ、保護者様の子育てに関する悩みや不安にも対応してまいりたいと考えております。

現在、当部門は親子関係の支援体制を整えるために、厚生労働省の発達障害者支援施策のひとつである『ペアレントトレーニング』、親子のアタッチメントに着目する COS International の『安心感の輪・子育てプログラム（COS-P™：the Circle of Security Parenting Program）』について、関係機関・団体と調整を進めております。

実施の体制が整い次第、周知いたしますので今しばらくお待ちください。

それぞれの内容については下記を参照ください。

ペアレントトレーニング

下記 URL『発達障害児者および家族等支援事業（都道府県、市町村）』を参照
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaishahukushi/hattatsu/gaiyo.html

COS-P™

画面中腹の Japanese（日本語）による紹介動画を参照
https://www.circleofsecurityinternational.com/resources-for-parents/

問合せ先　小児科　子どものこころ診療部　TEL：0853-20-2220

お知らせ 島大病院ニュース
2023年9月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

世界初

乳児期神経変性疾患の遺伝子治療にむけた研究

病理部　准教授　荒木（あらき）　亜寿香（あすか）
教授　門田（かどた）　球一（きゅういち）

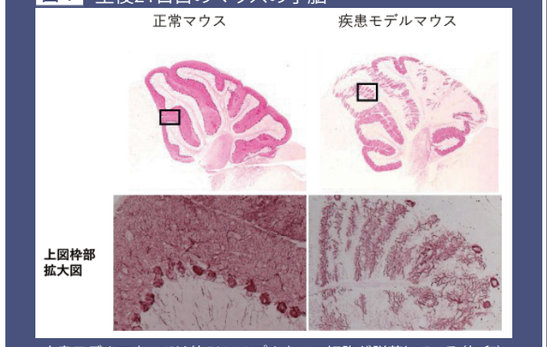
近年、新たな乳児期発症神経変性疾患として、ヒト *Cytosolic carboxypeptidase (CCP) 1* 遺伝子の異常に起因する神経変性疾患（以下、CCP1 神経変性疾患）が多数報告されています。これまでに報告された患者はすべて乳児期に発症し、主症状は重度の運動発育障害および知的障害で、ほとんどの症例で小脳萎縮とそれに伴う小脳失調症や末梢神経障害、下位運動ニューロン障害がみられます。

疾患モデルマウスの研究により、マウス *Ccp1* 遺伝子変異による運動発育障害は小脳プルキンエ細胞の変性脱落（図１）が原因であることが強く示唆され、*Ccp1* 遺伝子がコードする CCP1 タンパク質 (CCP1) は、脱グルタミル化酵素としてはたらき、微小管の翻訳後修飾に関与することが明らかにされています。また、*CCP1* 遺伝子異常が CCP1 の機能喪失を起こし、微小管の過剰なポリグルタミル化による軸索輸送や小胞体ストレスを介した神経機能障害を生じることが示されています。

私たちの研究室では疾患モデルマウス小脳における CCP1 の発現量が生後早期に有意に減少していること、小脳プルキンエ細胞における核膜構造や微小管構造の異常（図 2）を明らかにしてきました。

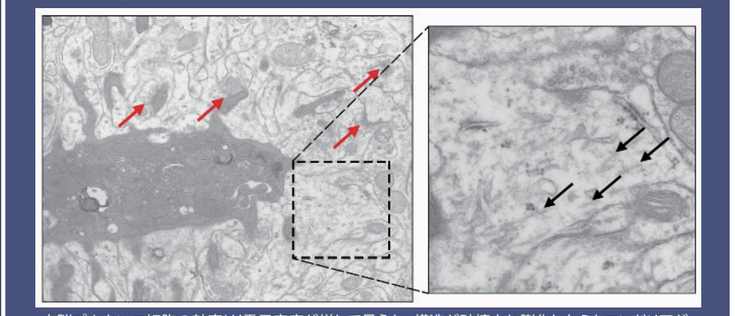
ほとんどの神経変性疾患においていまだ有効な治療法が確立されていません。そこで私たちは、最新のゲノム編集技術によって疾患型 Ccp1 変異モデルマウスを新たに作製し、有用な遺伝子治療ツールとして注目されているアデノ随伴ウイルスベクターを用いて、CCP1 神経変性疾患の治療法の確立を目指した研究を行っています。本研究で得られる知見が、世界で初めてとなる乳児期発症神経変性症の治療法の確立に寄与すると期待されます。

図１　生後21日目のマウスの小脳



疾患モデルマウスでは約50%のプルキンエ細胞が脱落している（矢印）。さらに発生が進むと、ほとんどのプルキンエ細胞が消失する。

図２　生後21日目の疾患モデルマウスにおける小脳プルキンエ細胞の透過電子顕微鏡像



小脳プルキンエ細胞の軸索は電子密度が増して見られ、構造が破壊され膨化したミトコンドリアが見られる（左図）。　微小管構造が破壊されている（右図）

私たちの研究は下記のウエブサイトで詳しく紹介されています。

島根大学ダイバーシティー推進室
https://diversity.shimane-u.ac.jp/for-prospectivestudents-parents/

SAN' IN ダイバーシティー推進ネットワークの推し研究室
https://diversity.shimane-u.ac.jp/_files/00268820/oshi_new.pdf

研究室紹介動画
https://www.youtube.com/watch?v=fhNPJGQT9as

問合せ先　病理学講座器官病理学 事務室　TEL：0853-20-2144

ご報告 島大病院ニュース
2023年9月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

島大病院ニュース 2023年9月
ご報告

2023年度

医学部オープンキャンパスについて

学務課入試担当

８月５日（土）に今年度の医学部オープンキャンパスを開催いたしました。入試広報の一環として高校生を対象に、毎年行っているものです。

当日は猛暑にもかかわらず遠くは沖縄県など県外からも来場され、医学科 151 人、看護学科 108 人の計 259 人の多くの方にご参加いただきました。

医学部長、病院長による挨拶の後、医学科では研修医や先輩学生からのメッセージを聞く企画ならびに医学英語教育学講座岩田教授、免疫学講座原田教授、地域医療教育学講座長尾教授、内科学講座内科学第二石原教授による模擬授業・講座紹介などの企画を実施しました。

看護学科では、地域・老年看護学講座原教授による研究ミニレクチャーや、先輩学生からキャンパスライフや受験対策について聞く企画、救急蘇生の模擬演習などを行いました。

参加した高校生からは、「模擬授業や先生方、先輩方の話を聞いて、自分の学びたいことはここにあるということを認識できた」、「先生や授業の雰囲気を知ることができたのは、すごく良い経験になった」、「キャンパス内の様子などを知ることができ、入学したい気持ちが高まった」などの感想がありました。

対面型のオープンキャンパスに加え、Web 型オープンキャンパスとして、学科長による学科紹介動画や広報サポーター作成の動画などを大学ホームページに掲載します。対面型に参加できなかった方を含め、広く医学部の魅力を発信できるものと思っております。

医学部オープンキャンパスHP

問合せ先　学務課入試担当　TEL：0853-20-2087

ご報告 島大病院ニュース
2023年9月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

ご報告

出雲市民フォーラム
「島根大学病院の最新治療」2023夏を開催しました！

総務課企画調査係

7月29日（土）、8月20日（日）に、島根大学医学部臨床小講堂で出雲市民フォーラムを開催しました。「島根大学病院の最新治療」2023 夏と題したフォーラムには、あわせて約 150 名の参加者にお集りいただき、それぞれの講師が紹介する当院の取り組みについて、終始熱心に聴講いただきました。

講演後の質疑応答では、講師と参加者の活発なやりとりが行われ、治療に関する質問だけではなく、当院への期待やご要望など、たくさんの貴重なご意見をいただきました。

アンケートには、「先生方に分かりやすく講演していただきとても勉強になりました。今後も機会があったら参加したいと思います」、「分かりやすくて良かったです。具体的な話もあったので、少し安心感につながりました。ずいぶん優しくて丁寧な先生ばかりと安心できます」など、多くのコメントをいただきました。

暑い中、お越しいただきました参加者の皆さまへ深く感謝申し上げますとともに、当院の活動内容や最新治療に関する情報を広く市民の皆さまにお知らせできますよう、今後もフォーラムを継続して参ります。

講演内容

7月29日開催

①「消化管がんの正確な内視鏡診断と低侵襲治療」
消化器内科　准教授　柴垣　広太郎

②「からだにやさしい手術 ―消化管（食道・胃・大腸）―」
ロボット支援手術推進センター長
消化器外科　准教授　平原　典幸

③「からだにやさしい手術 ―肝臓・胆のう・すい臓―」
肝・胆・膵外科　教授　日髙　匡章

8月20日開催

①「膵がんの早期診断と治療法
～島根大学を中心とした関連医療機関との取り組み～」
消化器内科　助教　福庭　暢彦

②「肝臓病患者さんと共に歩むために」
肝臓内科　講師　飛田　博史

③「大腸がん手術、ここまでできるようになりました！
～ロボット支援手術の実際～」
ロボット支援手術推進センター副センター長
消化器外科　講師　山本　徹

問合せ先　総務課企画調査係　TEL：0853-20-2019

ご報告 島大病院ニュース
2023年9月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

島大病院ニュース 2023年9月

ご報告

職員による

環境整備ボランティア活動を行いました

会計課施設管理室　室長　米原（よねはら）　昌隆（まさたか）

毎年、当院の環境整備は各種団体のボランティアの方々に定期的に行って頂いたり、業者に委託するほか、有志を募り、職員のボランティアによる環境整備も実施しています。

7月29日（土）、椎名病院長をはじめとする教職員により、臨床研究棟・第二研究棟周辺の除草・剪定など清掃活動を行いました。学生・教職員の行き交う医学部研究棟周辺はすっきりとした景観になりました。

清掃活動後はC病棟5階緩和ケア病棟の屋上庭園に移動し、花苗の植栽を行いました。

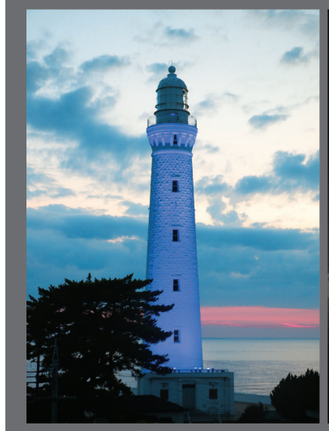
梅雨明け後の厳しい日差しの中、屋上庭園の風景を楽しみにされている入院患者さんに喜んでもらえるよう、色彩豊かな夏の花苗をレンガの輪郭に沿って植え付けました。C病棟各階より色とりどりの花壇を楽しんでいただけます。

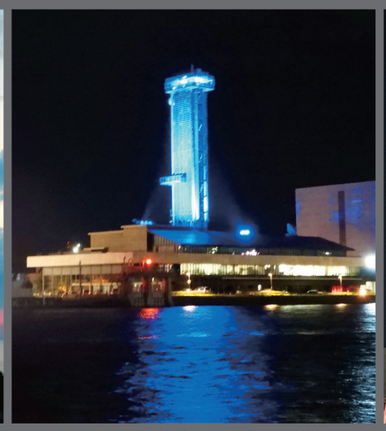
今後も、医学部ならびに当院の美観を維持するボランティア清掃活動にご理解・ご協力頂きますようよろしくお願い致します。

問合せ先　会計課施設管理室　TEL：0853-20-2549

ご報告 島大病院ニュース
2023年9月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

ご報告


出雲日御碕灯台


TSKさんいん中央テレビ（テレビ塔）

ＮＨＫ松江放送局放送会館鉄塔

「2023世界肝炎デー」啓発活動を行いました

肝疾患相談・支援センター　センター長　飛田（とびた）　博史（ひろし）

7月28日は世界肝炎デー（7月24日～7月30日は肝臓週間）でした。

当院は肝疾患診療連携拠点病院として島根県から指定を受け、肝疾患相談・支援センターを設置し、主にＢ型肝炎やＣ型肝炎に関する相談、医療情報の提供、講演会等を行っています。

この度、2023年度肝炎対策事業の一環として、啓発ポスターを院内に掲示し、肝臓週間にはスタッフが啓発マスクを着用して啓発活動を行いました（写真1）。

また、肝臓週間に合わせて出雲日御碕灯台、TSKさんいん中央テレビ（テレビ塔）、NHK松江放送局放送会館鉄塔を肝炎デーのシンボルカラーであるブルーにライトアップしました。

TSKでは世界肝炎デーについてニュース番組で取り上げていただき、肝臓週間には啓発TVCMを放映しました（写真2）。

なお、当センターでは肝臓病教室・家族支援講座を年に数回開催しています。最新治療や日常生活の注意点など肝疾患に関する知識向上を目的とした内容や、ご家族にも役立つ情報を盛り込んだ講演となっており、当センターHP上にて動画配信形式で開催しています。ぜひご視聴ください。▶▶▶▶▶▶▶▶▶

今後とも肝疾患診療連携拠点病院の活動に、ご理解ご協力の程よろしくお願いいたします。

写真1

写真2

問合せ先　肝疾患相談・支援センター　TEL：0853-20-2721（受付時間 9:00～16:00）

ご報告　島大病院ニュース
2023年9月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

お知らせ

活動紹介「てごほ～む」について

島根大学医学部医学科４年　てごほ～む代表　月橋（つきはし）　祐音（ゆうと）

私たち「てごほ～む」は小中高生向けに、学習支援を軸として居場所づくりをしている島根大学医学部生の団体です。約２０名で活動しています。

活動内容はオンラインまたは対面で子供たちと一緒に勉強したり、ボードゲームや自分たちの考えたゲームをしています。オンラインはZoom（写真1）を使っており対面では塩冶神社（写真2・3）を使わせていただいています。

「てごほ～む」の目指すものは第３の居場所になることです。家、学校、その次に「てごほ～む」が居場所になれるようにと考えています。私たちは学習支援を軸に活動していますが学習支援を必要としている人には貧困や発達障害、不登校、外国ルーツなど様々あります。またこれらにあてはまらなくとも居場所が欲しい人はたくさんいます。そのため私たちは、子供たちみんなの居場所になりたいと思っています。

まだ「てごほ～む」は結成して４年ほどしか経っておらず、出雲においてそこまで知名度は高くありません。居場所を必要としている子供たちに声が届くように、引き続き活動していこうと思います。私たちの活動を暖かく見守っていただければと思います。

※“てご”とは、手伝い、手助けなどの意味合いで使われる方言です。

写真1

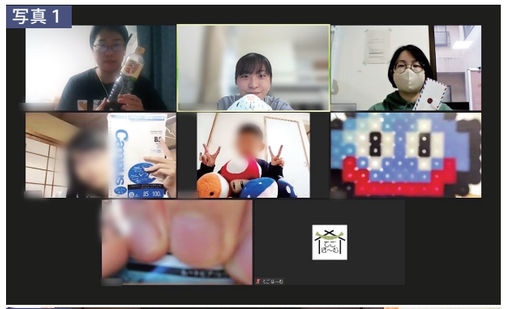


写真2

写真3

問合せ先　学務課学生支援・総務担当　TEL：0853-20-2088

お知らせ　島大病院ニュース
2023年9月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

ご報告

「高校生の一日看護体験」を実施しました

看護部長　川上（かわかみ）　利枝（としえ）
副看護部長　三吉（みよし）　由美子（ゆみこ）

島根県と島根県看護協会の事業を受けて、7月24日（月）に県内の高校生を対象として「一日看護体験」を4年ぶりに開催しました。看護体験を通して、看護の心や看護職への関心を高めてもらい、ひとりでも多くの皆さんに看護職を目指してもらうことを目的としています。

今年度は、松江～浜田市内の11校36名の参加がありました。高校生1～2名が一般病棟、クリティカル病棟など15部署に分かれてケアなど看護師・助産師と一緒に看護の場面を体験しました。また、高度外傷センター、ドクターカー等の見学を実施し、救急救命士から直接説明をうけました。

体験終了後の意見交換では、高校生から「とても優しく教えて頂きとても貴重な体験でした。改めて看護師さんはやりがいがある仕事だと思いました」、「救急科の中に入ることができ、初めて見るものや、ドクターカーを見ることができて貴重な体験ができました」、「すごく親切に詳しく看護師という職業について教えていただき、貴重な体験になりました。普段できないような見学、体験は刺激になり、丁寧に看護ができる人になりたいと思いました」、「一日看護師体験に参加し、参加する前より看護師になりたいという気持ちが強くなりました」等の感想が聞かれました。

ドクターカーの説明を受けている様子

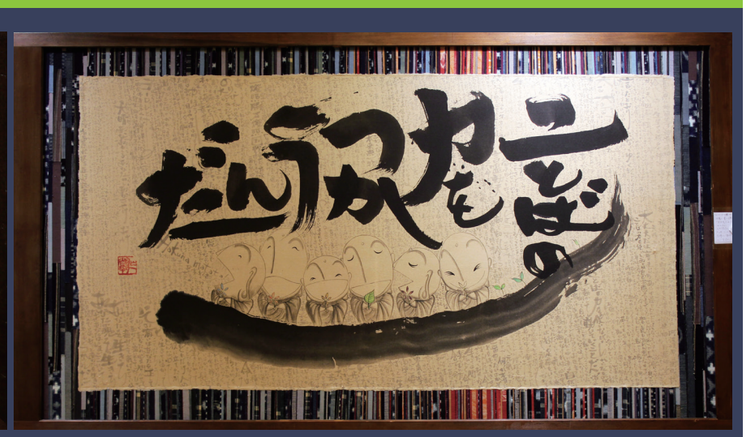
意見交換会

医療器械の説明を受けている様子

問合せ先　看護部　TEL：0853-20-2478

ご報告 島大病院ニュース
2023年9月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/

お知らせ



市民ギャラリー 展示紹介

藤原（ふじわら）　仙人掌（さぼてん） 氏の作品を展示しています

総務課企画調査係

8月2日よりB病棟1階「市民ギャラリー」にて、鳥取県で無農薬野菜を育て、糀・味噌・醤油なども作り薪を割る自給的な暮らしをしながら創作活動を続けておられる藤原 仙人掌さんの作品を展示しております。

京都で育った藤原さんにとって、お地蔵さまはいつもそばで見守ってくださる天使のような存在で親しみがあったそうです。ご両親の影響で何かを作り出すことが大好きだったこともあり、流木でお地蔵さまを彫るようになったこと、やがて描くようになったのも自然の流れとおっしゃいます。絵に言葉を添えるようになったのも誰かを励ましたりするためではなく、小さなことで悩んだり苦しんだりしてしまう自分にむけてのものだったそう。

藤原仙人掌さん　略歴

1972年	東京都生まれ。京都で育つ。
中学二年	初めて長期一人旅（北海道）
大学に入ってから	キャンプとヒッチハイクで海外へ
1991年	木彫りを始める
1993年	ネパール西部の自給率の高い村々を歩いて旅しカルチャーショックを受け自然と共生する暮らしに憧れ始める
1996年	1年半、石垣島でキャンプ生活 流木でお地蔵さまを彫り始める
1998年	墨絵を描き始める
1999年～	全国各地で個展活動を始める
2001年	インド西部地震の支援活動に携わる 自給自足の暮らしが何より大切な事を再確認する
現在に至る	

とてもにこやかなお地蔵さまの表情が特徴的で、「大丈夫すべてうまくいく」「ゆっくりでいいんだから」「心配するなまかせておけ」「見えないふしぎでつながっているんだね」と観る側の心にそっと寄り添い、背中を押してもらえるような言葉が描かれています。畳一畳ほどの大きな作品「ことばの力をつかうんだ」の文字の背景には、びっしりとこの作品に込めた仙人掌さんの思いが綴られています。

問合せ先　総務課企画調査係　TEL：0853-20-2019

お知らせ 島大病院ニュース
2023年9月 発行
編集・発行　島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先　島根大学医学部附属病院　医療サービス課　医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068　FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ　https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/